

クリスチャン人生のはじまり

新しくクリスチャンになった方のための
二つの強化セッション

ジェリー・リード

“互いに励まし合いましょう”
(ヘブル3:14)

目次

はじめに

セッション 1

イエス様に出会う

聖書は私達(人間)がどういう存在かを教えています
人間に対する神様の本来のご計画
神様は人間にどのような希望を与えていますか
イエス様が来られてすべてが新しくなりました
キリストにある新しい命に生きるとどうなりますか

セッション 2

主と共に生きる

主を慕い求める
主の御声を聞く
主と対話をする
主を証しする
他のクリスチャンとの交わり
キリストにあって成熟した者となる

はじめに

“ク リスチャン人生のはじまり”は、新しくクリスチャンになった方々がキリストに従う者として第一歩を踏み出せるように構成されています。経験あるクリスチャンとぜひ一緒に、このテキストを一通りやってみて下さい。

近年、クリスチャンの霊的な形成について福音派の間で強調されてきたことがこの手引きにも反映されております。願わくは、この手引きによって、新しくクリスチャンになった方々がキリストにある霊的な成長の道のりへと踏み出し、この手引きが他のクリスチャン達との豊かな交わりを促進する素晴らしい道具として益々用いられますように。

“クリスチャン人生のはじまり”は、新しくクリスチャンになった方々がキリスト者として良いスタートを切る手助けとなるだけでなく、さらなるキリストの弟子として歩むための‘観測気球’でもあります。もし、この手引きを通して、学んだことや他のクリスチャンとキリストの弟子として分かち合った体験があなたにとって有益なものであれば、次にすることは、キリストにある弟子関係をますます発展させていくことです。できれば、二、三人で一グループをつくり、この弟子関係を実践していきましょう。回を重ねるごとにきっとあなたは様々なことを体験し、非常に多くのものを得ることになるでしょう。

著者について

著者のジェリー・リードはアメリカのシカゴ（イリノイ州）にあるノースパーク神学校で福音伝道学と弟子訓練を教える教授です：カリフォルニア大学デービス校神学博士（Ph. D. 宣教学）。著者の尽きることのない弟子訓練への情熱は20年にわたるエクアドルとメキシコでの福音伝道・教会形成を通して築き上げられました。著者は、この“クリスチャン人生のはじまり”を作成するにあたり、助言してくれた教え子達一人一人に感謝しております。中でも、ダニエル・ダミングに、彼の励まし、考え、編集への協力に対して感謝せずにはられません。

クリスチャン人生のはじまり

多くの人々がクリスチャンになりたいと思い、イエス・キリストを自分の人生に受け入れます。他の人がイエス様を信じ、受け入れることは、先にクリスチャンとして歩んでいるものとしてもとても嬉しいことです。

クリスチャンになったばかりの時は、さらなる信仰の成長へと踏み出すために特に他のクリスチャンの手助けが必要になります。しかしながら、なかなかこの手助けが得られず、クリスチャンとして成長するどころか、しだいに信仰の確信がうすれ、クリスチャン生活に疲れ果ててしまうという非常に残念な結果もよく耳にします。

ところで、クリスチャン生活を始動させる過程は、車をジャンプ・スタートさせる過程とよく似ています。ジャンプ・スタートとは、バッテリーがあがってしまった車をブースターケーブルで他の車につなげてエンジンを再始動させることです。当然のことですが、ジャンプスタートを成功させるためには、バッテリーが十分に充電されている車につながなければなりません。つまり、新しくクリスチャンになったばかりの方々が経験ある他のクリスチャンの助けを借りて、共に学び、励まされながら、イエス様に従うものとしてエンジンを始動させ、さらなる信仰の成長へと大きな一歩を踏み出すことができるのです。

以下に続く、“クリスチャン人生のはじまり”では、許される時間や必要に応じて二つもしくはそれ以上のセッションに分けてもかまいません。各セッションは、個々の状況や必要に対応できるように柔軟に作られています。このセッションで、経験あるクリスチャンと共に学ぶことを通して、イエス様に忠実に従う成熟したクリスチャンへと成長する大きな一歩を踏み出しましょう。

セッション 1

イエス様に出会う

1. **聖書** (下記*を参照) は人間がどういう存在かを教えています:

- 1.1 神様のイメージに創られたユニークな存在 (詩篇139:13-16)。
- 1.2 自分自身の選択の結果、さ迷っている (イザヤ53:6)
- 1.3 神様から離れた存在 (イザヤ59:2)
- 1.4 私達に選択の自由があります (ローマ6:23) :
賜物 (贈り物) を受け取る、受け取らないは、受け取る側の自由なのです。
- 1.5 キリストの共同体に新たに加えられた存在 (Iペテロ2:9,10)

2. **人間** に対する神様の本来のご計画 (→図 #1)

2.1

神様はどんな考えをもって、人間を創造されましたか? (創世記1:26,27)

2.2

人が罪を犯した時、神様のご計画も変わってしまったのでしょうか? (ローマ8:29)

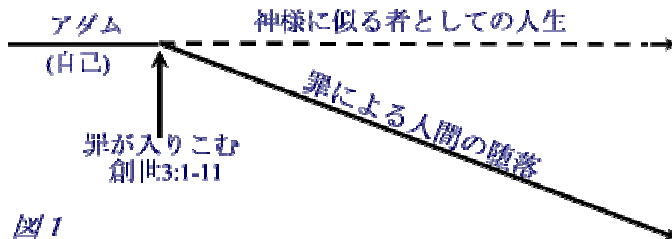


図1

図の点線は、神様の本来のご計画を表しています。人間は神様からどんどん離れた存在となっています (下向きの矢印)。

*

聖書は、旧約聖書・新約聖書の二つの部分から成り立っています。旧約聖書は、天地創造から始まって、神様が地上のすべての人々に神様のことを宣べ伝える神の民 (イスラエル) をどの様にお選びになったかが書かれています。新約聖書は、イエス様の誕生、生涯、死、復活について又、復活後の弟子達について書かれて

います。旧約聖書は39、新約聖書は27の部分から成り、各部分を‘巻’と呼んでいます。特定の段落や文を見つけ出すために‘巻’はまず、章に分けられさらに細かく文に区切られています。それぞれの文を‘節’と呼びます。聖書の最初のページにある目次は、各巻を探すのにとても便利です。

3. 神様は人間にどのような希望を与えていますか？ (→図 # 2)

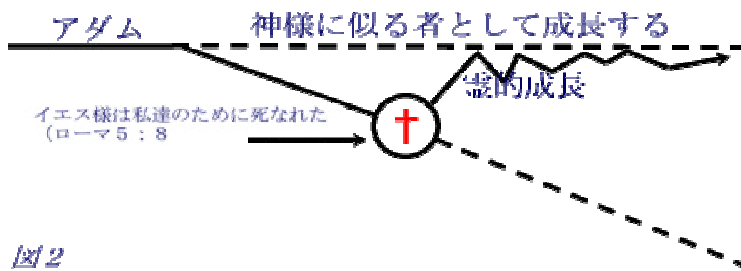


図2

私達がイエス様に出会う時(図#2の○印)、私達は“新しい命に生きる”ものとなります。そして、霊的な成長をするにつれて図中の上下する波も小さくなっていきます。

3.1.1 たとえ人間が墮落した後でも、神様が人間に対するご計画を変えないとしたら、人間がもう一度このご計画に含められるためにどんな変更が必要ですか？

ヨハネ1:12, 13 :

エペソ2:5 :

コロサイ3:9, 10 :

3.2

私達の内側にある変化が起こります。これは、自己中心、すなわち失われた存在からキリストに従うものへと変えられていく変化で、あなたの内側に神のイメージに生きるよう導く聖霊が住んで下さるのです。

3.3

イエス様を通して、私達はどのように新しい命を受けるのでしょうか？

黙示3:20

ヨハネ1:12

ローマ10:9

4. **イ**エス様があなたの人生の中に来て下さると、人生の目標、価値観、方向などにおいて、たくさんの変化が起こり（Ⅱコリント5:17）、永遠の命も与えられます（Ⅰヨハネ5:11, 12）。これは、現在、実際に与えられうるものであることに注意して下さい。あなたには、**今**、（‘いつか’ではなく）永遠の命が与えられているのです。

ヨハネ6:47では信じる者は何を持つとっていますか？

5. 新 しい命に生きる時、何が起こるでしょうか

5.1

新

たに霊的な目が開かれる—自分の人生をイエス様に開放した一人一人の内に聖霊が住んで下さいます (エペソ1:13)

。 聖霊は、私達を導き、イエス様についてもっと知りたい、他の人にもイエス様のことを伝えたいという望みを抱かせます (ヨハネ14:26、ヨハネ16:13、使徒1:8)。

エペソ1:13—信じた時、私達にどんな証印が押されましたか？

使徒1:8—

聖霊があなた方の上に臨まれる時、どんなことをするための力が与えられますか？

5.2 悪の支配に打ち勝つ—私達がイエス様を信じる時、私達は暗やみから光にサタンの支配から神に立ち返っているのです (使徒26:18)。神様は、悪い事をしたいという誘惑に打ち勝つ力を私達に与えると御言葉で約束しています (Iコリント10:13)

私達の苦しみが終わるわけではありません。しかし、私達には今、神様が共にいて下さいます。私達は、なお、罪を犯し、そのことを悔いますが恥じ入って神様から離れるのではなく、赦しと助けを得られるという信頼を持って神様のところに行くことができるのです。イエス様は私達が過去に犯した、現在に犯している、そして将来にも犯すかもしれないすべての罪の代価をすでに支払って下さいました。(Iヨハネ1:9、ヘブル4:16)

。 私達は、神様の恵みとあわれみ (恵み=私達が受けるにふさわしくないものを受けること、あわれみ=当然の報いから免れること) を理解し始めます。

Iコリント10:13

試練にあう時、私達には神様からのどんな約束がありますか？

Iヨハネ1:9

私達が自分の罪を言い表すなら、神様はどんなことを約束なさっていますか？

セッション2

主と共に生きる人生の始まり

1. 主を慕い求める

1.1

あなたがイエス様と出会えたのは、イエス様がまず、あなたを探しに来て下さり、そして、あなたが応答したからなのです。今、イエス様はあなたの新しい友となってくれます。イエス様は、あなたの思い、言葉、行動、をすでに知っているのです（詩篇139:1-4を読みましょう）。

イエス様は、あなたを愛していますが、それでも尚、あなたが実際にイエス様との関係を深めつつ、その愛がどんなに深いものかを個人的に発見する必要があります。イエス様との関係を深めていく具体的な方法は、神様の言葉である聖書を読むこと、祈りを通してイエス様と対話をすることです。

イエス様が聖書をよく知っていたように、私達も御言葉を暗唱するほど聖書に親しむなら、私達は、イエス様の御心に従った正しい判断をするようになります（マタイ4:4）。そして、イエス様が祈ったように私達も祈り、主のご臨在と人生においての導き（どう生きるか）を求めていきましょう（マタイ1:35）。

マタイ4:4

神様はパンの他に何を私達の生きる糧とすることを望んでおられますか？

1.2 新約聖書の四巻目、ヨハネによる福音書を読みましょう。目標として、一日に一章ずつ読むのが良いでしょう。

この福音書では、特に、“信じる”という言葉に注目して下さい。1:12にでてくる最初の“信じる”と20:30, 31にでてくる最後の“信じる”をよく見てみましょう。この福音書を通して使われている“信じる”は、イエス様の教えに単に賛同する

というだけではなく、イエス様に**信頼し、従い、より頼む**、つまり、イエス様に**‘絶対の信頼’**をおくということなのです。

“クリストファー・コロンブスを信じたからといって、コロンブスの考えに従ったり、弟子になったりすることにはならない”という人達がいました。イエス様を信じるとは、人生において新たな焦点を、新たな生きる目標を、そして永遠の命という新たな希望を与えて下さる方により頼むことなのです。イエス様を**信じると**、イエス様は私達の内に来て共に生きて下さいます。

ヨハネ1:12

イエス様の御名を信じるなら、どうなりますか？

ヨハネ20:30, 31

ヨハネによる福音書の書かれた目的は何ですか？

2. 主の御声を聞く

2.1

主は神の御言葉である聖書を通して、私達に語りかけて下さいます。私達が聖書を読む時に御言葉を通して語りかけて下さるように主にお祈りしましょう。聖書を毎日読む習慣を身につけることは、とても良いことです。

一日読めない日があったからといって、イエス様があなたから離れてしまうわけではありませんが、御言葉を読まなければあなたとイエス様との関係は色あせ始めてしまいます。丁度車のバッテリー切れのように、あなたの霊的なバッテリーも切れてしまったらあなたにもブースターケーブルが必要です。

聖書を読み始めた時、私達はすべてを理解するわけではありませんが生まれたばかりの赤ちゃんがミルクで成長するように、理解が広がることによって私達の霊性も育てられていきます。(Iペテロ1:23-2:2)

Iペテロ1:23-2:2

なぜ、私達は霊のミルク（御言葉）を慕い求めなければならぬのですか？

2.2 私達が祈る時、聖霊様を通して主が答えてくださいます。祈りは、あなたが一方的に主に話すことではありません。静まって、聞いて下さい。これには、少し時間が必要で、その体験することも人によって様々ですが、しばしば、直感的な、何かを聞いたような感覚を体験します（詩篇46:10、ヨハネ16:13-15、Iコリント2:12）。

神様から声であれば、聖書が教えていることと矛盾するものではありません。あなたは、あなたが直感的に思われたこと、聞こえてきたことと聖書に書かれていることとを比べることでそれらが神様からのものかどうかを判断することができます。

ヨハネ16:13-15 私達を真理に導くのは、どなたですか？

2.3 友人からの賢明な助言、特に他のクリスチャンとの交わりを通して主が私達に語られることもあります（使徒13:2,3）。箴言15:22では、私達が助言を求めていくことを勧めています。さらに詩篇1:1では神様を愛し、神様に従っている者、つまり主を、主の御言葉を知る者から助言を得るように忠告しています。従って、他のクリスチャンと共に礼拝し、交わりを持つことはとても大切なのです。

使徒13:2,3

パウロやバルナバを宣教に送り出すよう聖霊からの指示を受ける前にクリスチャン達がしていたことは何ですか？

3. 主と対話する

3.1 私達の目標は、呼吸をするように自然に主と対話をする事です。誰かと一緒にいて一言も言葉を交わさないなんておかしいですね。朝、起きた時、歩いている時、運転をしている時、仕事をしている時—あらゆる時に—あなたはイエス様と対話し、いろんな生活の出来事、考えや状況を分かち合うことができます。これが聖書のいっている“絶えず祈りなさい”ということです。(Iテサロニケ5:17)

Iテサロニケ5:17は私達に何を教えていますか？

3.2 祈りは自然に湧き出るようになるものですが定期的に神様と対話する時をもつことも大切です。毎朝、聖書を読み、祈りの時も一緒に持つのがとても効果的だと多くの人が感じています。イエス様も朝早くまだ暗いうちに起きて、祈りに出かけていました(マルコ1:35)。

朝は頭があまり働かないという朝に弱い人達もいますので午後の時間帯や夕方に祈りの時間を持つ人達がいても良いでしょう。私達は‘習慣の生き物’なので祈りを習慣として身に付けることはとても大切なのです。

マルコ1:35の例からあなたはどんなチャレンジを受けますか？

3.3 どんなことを祈ってもかまいません。その日読んだ聖書箇所から、祈りに導かれることもよくあります。もちろん家族、友人、職場のことについて、祈ることも非常に多くなるでしょう。まだイエス様のことを信じていない友人、家族のためにも祈りましょう。

とても重要な祈りなのによく見過ごされてしまうのがマタイ9:38でイエス様が言われた“収穫のために働き手を送って下さるように祈りなさい”です。このことを祈るときに、あなたもこ

の働き手の一人として主から選ばれたものとなるかもしれません。イエス様が弟子達に祈りなさいと言われた後で何が起こったかに注目してみましょう：イエス様は弟子達に御国について宣べ伝える権威を与えて送り出しています。（**マタイ10:7**）

4. 主を伝える

私達はイエス様に会おうと自然に、イエス様のことを他の人にも伝えたくになります。イエス様は、癒された人に向かって「家に帰って神があなたにどんな大きなことをして下さったかを話して聞かせなさい。」と、言いました。

Iヨハネ1:3 私達が他の人々に伝えるべきことは何ですか？

5. 他

5.1 彼のクリスチャンとの交わり

5.1 イエス様が私達の人生に来ると、私達は自動的に、新しい共同体の一員に加えられます。この共同体は、家族であり、教会であり、キリストの体なのです。**ローマ12:4-6**は、私達一人一人がキリストの体の一員であり、主に仕えるためにそれぞれ異なった賜物が与えられていると言っています。互いに仕え合うこと、まだ信じていない人々に仕えることは、主に仕えることにもなるのです。

5.2 新約聖書では、信じる者達が一緒に集まる例が非常に多く出てきます。これらの豊富な例に加えて、**ヘブル10:25**では、私達がクリスチャンの交わり、即ち、教会に加わることを直接、勧めています。これは、神様の御心にかなったこと、無くてはならないものだからです。

ヘブル10:25では何をやめないようにしようと、言っていますか？

おめでとう！

あなたは、この“クリスチャン人生のはじまり”を通し、他のクリスチャンとある時間を共有して御言葉を共に読み、話し合い、分かち合い、学び合うという‘キリストの弟子’どうしの交わり（弟子訓練）を体験し始めています。あなたが引き続き、この弟子訓練を通して成長し続けることをお勧めします。

イエス様も従って来た人々を弟子訓練していたことはもう、お気づきですね。イエス様は弟子にした人々と共に過ごし、彼らが成長するように小人数のグループでもって訓練しています。使徒パウロもイエス様のように沢山の人々を訓練し、その中でも有名なのがテモテでした。

キリスト者として成熟する

パウロは、テモテにクリスチャンとしてなすべきことについて、手紙を書き送っています。その中で“多くの証人の前で私から聞いたことを他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。”と、パウロは言っています（Ⅱテモテ2:2）。

神の御国でもある教会にあまり出席していなかったものから積極的に出席し、成長していくものへとなることは、やりがいのあることでしょう。‘クリスチャン人生のはじまり’は、ほんの始まりにすぎません。他の人のクリスチャンとしての成長を助け、その人達もまた、別の人達のその成長を助けていくという過程を通して、私達自身も益々成長し、学び続けようではありませんか。

この弟子訓練の過程を続ける方法の一つが10のステップからなる“キリストの弟子として歩む10ステップ”です。これは、たくさんの国々で長年、用いられてきました。キリスト者としての人生について話し合ったり、日常生活に当てはめた聖書の学びができるようになっています。

“キリストの弟子として歩む”は以下のホームページから、自由にダウンロードして、ご利用頂けます。

URL : www.discipleship.info jreed@northpark.edu

もしくは、アメリカ国内からは、フリーダイヤルでかけられる1-800-4332にご連絡頂ければテキストそのものを一冊USドル4 \$にてご注文頂けます。

“キリストの弟子として歩む10ステップ”は、最初スペイン語で書かれていましたが今や何ヶ国語にも翻訳されています。この10ステップは‘クリスチャンがキリストの弟子として成長し、今度は、その人が他の人の成長を助け、そのまた次の人もまた別の人の成長を助ける’というようにキリストの弟子関係が末広がり広がるよう柔軟に構成されています。又、クリスチャンの人生について基本的に聖書が教えていることにも焦点が当てられているため、この

10ステップを通して、聖書について、個々の状況について御言葉をどの様に当てはめていくかを互いに学び合い、豊かに分かち合うことができるのです。“キリストの弟子として歩む10ステップ”が用いられたところでは、キリストの弟子関係が10代にまで末広がりになった例がありました。